

高知大学共通教育広報誌 [パイプライン]



# PipeLine



特集「初年次科目」



## No.61 Contents

特集「初年次科目」	P1~9
共通教育自己点検・自己評価部会の活動 「シラバスを読んでいますか?」	P10~11
共通教育実施委員会からのお知らせ 全学・共通教育係からのご挨拶	P12

# 初年次科目

初年次科目授業の感想、意義、  
受講にあたってのアドバイス等

## Part 1 ▶ 学生記者から

### 初年次科目

「共通教育科目」には、「初年次科目」、「教養科目」があります。今号ではその内の「初年次科目」を取り上げています。これは、入学後すぐに高校以前の学びの転換を図り、自分で考え行動できる力、他者とコミュニケーションできる力、表現できる力などを修得するものです。

「初年次科目」は、「何をなぜどのように学ぶのか」を学ぶ「大学基礎論」、専攻する学問の輪郭を学ぶ「学問基礎論」、「大学英語入門」、「英会話」、「情報処理」、課題探求及び解決能力を身に付ける「課題探求実践セミナー」という必修科目からなっています。

### 情報処理について

人文社会科学部  
人文社会科学科  
社会科学コース  
3年  
飯島 礼有

初年次科目で学ぶ科目の中には、情報処理という科目があります。この情報処理という科目では、ノートパソコンの設定の仕方や電子メールのことや重要なファイルの保護など、パソコンを使うための基礎的な知識などについて学ぶことができました。これらのことを学ぶことによって、インターネットの仕組みを理解したり、利用する際のマナーなどを身につけたりすることができました。これらの知識は、大学に在学している間だけではなく、大学を卒業した後も必要であり、役立つ知識です。そのため、情報処理という科目は非常に有意義なものであると思いました。また、この科目ではそれらのことだけではなく、これからの情報社会を生きていくためにはどのようなことについて注意をしなければいいのかななどについても学ぶことができました。

初年次科目の情報処理という科目は、大学に在学している間だけではなく大学を卒業した後も必要で役立つ知識を学ぶことができる科目だと思いました。

### 課題探求

人文社会科学部  
人文社会科学科  
社会科学コース  
3年  
豊島 千加

初年次科目のうち課題探求実践セミナーという科目は複数コースがあり、どれを選べばよいか迷っている人もいるのではないのでしょうか。最初に履修する際にシラバスを見て好きなコースを選ぶのですが、希望していたコースが落選してしまうこともあります。私自身も地域振興などいわゆる経済系の課題探求を希望していましたが、地域防災系になりました。しかし、自分の学びたいことだけでなく、他のコースをやってみることで得られる学びがありますし、希望コースに落選したとしても発表やグループで討論する点は共通していると思います。そういった点からも当落結果に一喜一憂することなくあまり深く考えず受講することも一つの手段だと思います。

また、私が受講した際は同期型のオンライン授業でしたが、みなさんが受講するところには対面の可能性もあると思いますので、活動を通して友人関係を築けるチャンスでもあります。他学部の人達とも交流してみてもはどうでしょうか。

教育学部  
学校教育教員養成課程  
2年

吉松 岳志

## 初年次科目では、将来に向けての基盤を作る時間です。

初年次科目では、各々の学部における専門的な知識やその分野で課題とされている事柄について学ぶことができます。教育学部においては、現在の教育現場の状況やこれからの将来を担う子どもたちが抱える現代的な課題について学ぶことができます。

例えば、学問基礎論や課題探求実践セミナーなどの授業では、学校教育におけるいじめや不登校などの課題について学ぶだけではなく、それらの解決に向けて個人やグループで考えていく活動を行います。そのような活動の中で、コミュニケーション能力を育むだけでなく、「これから、自分はどのような教育者になりたいのか」について考え、自身の中に教育者としての像を築き上げていくことができると思います。

このように初年次科目は自分の将来に向けての基盤となる授業になります。そのため、新入生のみなさんには積極的に授業に取り組み、よりよい学びを得られるように頑張ってもらいたいと思います。

教育学部  
学校教育教員養成課程  
2年

渡邊 泰成

## 初年次科目で感じたこと

初年次科目で感じたことは、どの授業でもとにかくグループワークが多いということです。コロナ禍ではオンライン上でグループワークを行い、コロナ規制が緩和されると実際に教室に集まって事前に調べてきたことを共有し、議論を行います。このような活動は中学、高校ではあまり経験したことが無かったのでとても新鮮な気持ちで講義を受けていたことを覚えています。

自分の意見を持ち、周りと共有し最終的には資料を作りプレゼンテーションを行う。このような工程は今後大学を卒業し、社会人になったときに必ず必要になる能力だと思います。互いに考えを共有しあうことで自分の考えがどのくらい偏りを持ったものなのかということに気が付けるかもしれません。初年次科目では「大学基礎論」「課題探求実践セミナー」「大学英語入門」など教科は様々です。しかしその根本にあるものは共通しているところが多いと思います。そのようなことを知っているともまた違った視点で講義も楽しめるはずですが慣れない新生活に加えコロナ禍ということもあり、不安になることも多いとは思いますが初年次科目やそれ以外の講義も含めて学びを深め、皆さんの大学生活がよりよいものになることを願っています。

## 初年次科目の意義

人によって意義のある授業かどうかは変わってきますが、単位をとらなければいけない授業だということに変わりはありません。初年次科目は卒業に必要な科目ですので、単位をとらないと卒業できません。がんばってください。

授業の内容としては、大学で勉強するうえで基礎となる学習ですので、人によっては簡単すぎてつまらないと感じるかもしれません。私も大学英語入門の授業なんかはつまらなくて何度もバックレたくなりました。しかし後々になって基礎知識の重要性に気付いたのです。英語の場合、複雑な文章になればなるほど主語・述語の決定や品詞の使い方などの基本的な文法の知識が重要になってくるからです。

ものごとがつまらなさと感じたとき、その原因は環境にあるのではなく、自分自身にあります。大学の授業が難しすぎて嫌になっても、簡単すぎてつまらなくなっても、自分なりに目標や意義を見つけて取り組めば、楽しく継続することができます。初年次科目のような必須の授業を受けるときは特に、自分なりに意義を見出し、楽しく授業を受け、単位を落とさないようにしましょう。

理工学部  
生物科学科  
2年

松田 日那

総合人間自然科学研究科  
理工学専攻  
生物化学コース  
1年  
三歩 泉汰郎

## 初年次科目って何だろう？

初年次科目という言葉が突然聞いても、どのような講義なのか想像できない方が多いのではないかと思います。当時大学1年生だった私もその一人です。初年次科目では、英会話や課題探求実践セミナーといった講義があり、初対面の方々とも交流する機会が多くあります。このように表現すると、少し不安を覚える方もいるかもしれません。しかし、多くの学生と交流することで、大学1年次から他者の意見を聞く力、そして、自分の考えを論理的に伝える力が身に付くのではないかと思います。私自身、大学生になるまではグループワークという活動に苦手意識がありました。そんな中、大学1年次に初年次科目を受講したことで、グループ内での意見交換や新しい価値観に触れる楽しさを感じることができ、今ではグループワークを楽しめるようになりました。また、グループ内での議論を重ねる内に、お互いの仲も深まり、大学生活における不安などを相談できる友人もできました。

初年次科目から学べることは、大学生活の中だけでなく、社会人としても必要とされる基礎的な力なので、自分の将来をしっかりと見据えながら、ぜひ主体的に参加してほしいと思います。

医学部  
医学科  
1年

安枝 海

## 医学科の初年次科目について

医学科の初年次科目では、医療に関する専門知識だけでなく、教養科目や、将来医療に従事する者としての心構えや思考の基礎、またプレゼンで必要となってくるコミュニケーション能力やレポートを書くうえでの形式と注意点などを学ぶ事が出来ます。

これらの学習では、実際に医師として社会に出た時、または医学生として学習をしていくうえで必要な能力を身に付けることができると、私は考えています。例えば、医療に従事する者としての心構えや思考の基礎は、医師として働くうえで必要不可欠なものであり、単に専門知識を詰め込むだけでは決して育まれないものです。そういった考え方を学ぶことができるのは貴重な機会であると言えます。また、プレゼンテーション能力やレポートの作成能力は、医学生として学んでいく上で大いに役に立つ能力です。このような、単なる専門知識の学習では得られないものの、医師として働く、もしくは医師になる上で必要不可欠な要素を学習する場として、初年次科目は優秀であると、私は考えます。

医学部  
看護学科  
1年

藤田 真衣

## 課題探求実践セミナー

看護学科1年の「課題探求実践セミナー」では、「高知」「地域」というキーワードを基に、グループで地域の「健康・医療・福祉・子育て・高齢者」に関連する課題を見出し、情報収集を行いながらその解決策を検討しました。そして、Power Pointを用いて発表し、他のグループと意見交換をしました。

高知県では、都市部と中山間地域の医療提供体制に大きな差があります。私のグループでは、このことに着目して、無医地区の住民にどのような医療を提供すれば良いかなどを議論しました。グループワークを通して、患者さんが普段地域でどのような暮らしをしているのかを捉えることの重要性に気付きました。また、課題解決の過程で行き詰まることもありましたが、グループメンバー全員で物事を多角的な視点で捉えることにより、解決策を導くことが出来ました。

この科目を受講して、様々なことに問題意識を持ったり課題を解決したりする力がついたと思います。これらは医療にかかわるどの科目にも通じる力なので、新入生はぜひ主体的に取り組んでください。

## 大学英語入門

農林海洋科学部  
農林資源環境学科  
4年

渡邊 荘介

私は初年次科目である大学英語入門・英会話の講義を通して、英語に対する意識が大きく変わりました。大学に入学した当初は、TOEICやTOEFL等の資格取得をしようと意気込んでいた一方で、友人との遊びを優先してしまい、先延ばしにしていました。しかし、大学英語入門や英会話の授業で同じクラスになった友人から就職活動を少しでも有利に進めるためにTOEICの勉強を既に始めていると聞き、その友人に感化された私は大学初年次からTOEICの資格取得を目指し勉強に励みました。結果、就職活動に活かせる点数を取得でき、大学四年生になった現在、無事に就職活動を終えることが出来ました。このように大学英語入門や英会話で出会った友人により英語に対する意識が変わり、とても有意義な大学生活を送ることが出来たと感じています。また、研究室に所属した際に海外の留学生の方々とは話す機会があり、このような方々と英語を通して意思疎通を図れることにも充実感を感じました。英語の勉強は、就職を有利に進めるためだけでなく、海外の方々とのコミュニケーションを取る際にも非常に役立つと感じ、この授業を受けられて非常に良かったと感じています。

## 初年次科目でのグループワークについて

農林海洋科学部  
農林資源環境学科  
4年

横関 しおり

大学に入学したばかりで、地元を離れ、大学生活や一人暮らしという新しい環境を不安に感じていました。初年次科目では大学での学び方や、授業内容を深めるために同回生たちと話し合い結論を導く「グループワーク」を行いました。グループワークでは、最初に班員同士の自己紹介から始まりました。そこで出身地や趣味をきっかけに、大学での新しい友達を作る機会となりました。グループワークでは授業時間外にも班員で話し合う時間が必要となることが多かったため、話し合いの後に班員と遊びに行くこともあり、さらに仲良くなれたと感じています。また、回数を重ねるごとに、話し合いのネタとして授業の重要なポイントを見つける力や、班員の新しい視点からの意見を聞くことで自分自身の視野が広がるきっかけにもなりました。さらに、自分の意見を相手に分かりやすく伝える力や、相手が伝えたいことを読み取る力が鍛えられたと感じています。2年生以降の授業や就職活動でもグループワークを行うことは多いため、初年次で経験してよかったと思っています。



地域協働学部  
地域協働学科  
1年

上原 彩吹実

## 初年次科目から得た学び

初年次科目では、全体を通してグループワークが多かったと感じます。入学してすぐに授業が始まるので知り合いもおらず不安ばかりでしたが、授業のグループワークを通して様々な人と関わることができ、友達もできました。また、考え方やこれまでの経験などが全く異なる人たちとのグループワークは、自分の考え方を広げるきっかけになりました。入学前は人前で自分の意見を発表することが苦手だったのですが、初年次科目を通してそのような経験を積むことで、苦手意識を払拭することができました。

初年次科目の中でも課題探求実践セミナーが一番印象に残っています。新型コロナウイルスの影響により、地域に出向いて地域の方たちと活動するということではできませんでしたが、学生のみでの鏡川のゴミ拾いなどを行いました。活動後にグループごとにその時々で自分が感じたことや、学んだことなどを振り返ることで、有意義な活動にできました。一見、振り返りは面倒にも思いますが、振り返りを十分に行うことでその経験を次に繋げることができると感じました。

## 初年次科目について

初年次科目はこれから大学で4年間学びを深めていくうえで、どの科目も重要なものになっています。その中でも私は課題探求実践セミナーについて紹介をしていきます。

地域協働学部の課題探求実践セミナーでは学部の60人をいくつかの班に分けて活動を行います。座学の講義は少なく、グループワークがメインの授業です。はじめは戸惑いも多くありましたが、授業を重ねていくごとに、グループ活動が楽しいと思えるようになってきました。

また、後期ではこの授業で学習したことをもとに、県内の企業と協働して実習を行います。その際にもグループワークがメインになるので、この課題探求の授業は地域協働学部生にとっては今後の授業のすべての基礎になる科目と言っても過言ではありません。

新型コロナウイルスの影響で学外での実習活動は少なくなりましたが、地域を知るという観点で鏡川周辺の清掃活動、大学周辺でのスポーツゴミ拾いを行いました。

身近な地域を知るという事もこの授業を通じて行うことができ、とても有意義な科目であると考えます。

地域協働学部  
地域協働学科  
1年

奈良 可南子



特集

# 初年次科目

初年次科目授業の感想、意義、  
受講にあたってのアドバイス等

## Part 2 ▶ 教員から

人文社会科学部

岡田 健一郎

### 人文社会科学部・社会科学コースの大学基礎論と学問基礎論

高知大学では1年生で大学基礎論(第1学期)、学問基礎論(第2学期)が必修になっています。しかしその内容は学部ごとに異なっています。そこで今回は、2022年度に実施された人文社会科学部・社会科学コースの大学基礎論と学問基礎論についてご紹介したいと思います。社会科学コースのカリキュラムの特徴は、1年生から毎学期、少人数のゼミが必修であるということです。大学基礎論や学問基礎論は大人数講義となっている学部も多いと思いますが、社会科学コースではどちらも少人数ゼミとして運用してきました。

まず大学基礎論では、1年生を約10名ずつ、9ゼミに分けました。最初の3回はゼミごとにガイダンス、アイスブレイク、e-ポートフォリオの説明などを行いました。他の学生と話す機会をつくり、授業に慣れてもらうことがねらいです。その後は一旦ゼミを離れ、全員向けに坂本智香先生(学び創造センター)にmoodle上で非同期型のライティング講座を4回ほど行って頂きました。レポートの書き方などに不安を抱えている学生も少なくないので、ここで基礎的なスキルを身につけてもらいます。その後は再びゼミに戻り文献講読を行いました。ここでレジメの書き方、報告の仕方を学び、今後のゼミに備えてもらうことがねらいです。

次に学問基礎論でも、1年生を約10名ずつ9グループに分けます。こちらでは、各グループが3名の教員を順番に回って行って、本(新書程度のもの)を合計3冊読みます。まず1人目の教員のところに行き、3回くらいかけて新書を1冊読みます。レジメをつくり、報告もします。1冊目が終了したら、2人目の教員のところに行き2冊目の本を読んでいく……。という流れで、3冊目の本を読み終わったら、アドバイザー教員のところで全体の振り返りを行って終了です!

(なお、2023年度からは大学基礎論は講義形式となり、課題探求実践セミナーで少人数ゼミを行う予定です)

教育学部

福谷 遼太

## 大学基礎論(教育学部)

新入生の皆さんに向けて、教育学部(学校教育教員養成課程)の初年次科目のうち、1年次第1学期の必修科目である「大学基礎論」をご紹介します。

教育学部における大学基礎論は、簡単に説明すると、「充実した大学生活・人生を送っていきけるよう、入学して最初のタイミングで、4年間でどんなことを身につけることが大切かを学べる授業」です。具体的には、以下のようなことを身につけてもらうことを目的としています。

- ① 大学での学び(課題探求)とは、どのようなものかを知る
  - a) 自らの実践的指導力という課題をめぐる探求
  - b) 今日の学校教育現場における諸課題をめぐる探求
- ② 自らのキャリア(4年後、それ以降)をイメージし、自己省察を図る
- ③ 地域における大学・学部の位置づけを理解する
- ④ グループワークの手法を身につける

教育学部は学校教員を養成する学部ですので、学生の皆さんに「キャリアをイメージ」してもらえるように、現職の学校教員をお招きする等の工夫をしていることが特色だと思えます。令和4年度に実施された本授業のうち、特色ある授業回のテーマをいくつかピックアップします。

- SNSガイドラインおよび  
GIGAスクール構想について
- 地域と学校の連携について
- 発達障害の理解と支援
- 教師という仕事
- 次世代の教育について
- 教員採用選考について

以上のように、ICT(情報通信技術)や発達障害、次世代の教育方法、そして3年後に控える教員採用試験など、学校現場を取り巻く話題を幅広く扱っており、皆さんが学校教員を目指すにあたってこの4年間に学ぶべきポイントを押さえておくことができます。

また、この授業は教育学部生全員が受講しますが、10名前後のグループに分かれて活動します。グループワーク等によって他の学生と意見交換する機会があるため、教育を多角的に捉えることができるとともに、1年生同士の繋がりも生まれる、魅力的な授業とも言えます。





## 情報処理事始め

理工学部

峯 一朗

1997年(多分)に高知大学で「情報処理」の授業が始まってから、いつの間にか四半世紀のときが流れました。温故知新となるかは???ですが、この授業を初年度から毎年のように担当してきた者の昔話を聞いて下さい。

1995年に本学の学長に就任した立川涼氏(ダイオキシン研究者;故人)は「これからの大学は環国人情(環境・国際・人間・情報)だ」という方針とのこと。その一環として、1年生必修の共通教育「基軸教育科目」(≒現在の初年次科目)の大学学(≒大学基礎論+学問基礎論)、日本語技法(学問基礎論の旧科目名になっていますが……ちょっと違う?)、英会話、大学英語入門とともに情報処理(I・II)が開講されました。それと同時に全国に先がけて新生はノートパソコン必携となり、本学最初の推奨パソコンは東芝DynaBook Satellite 220CS(ACアダプター内蔵で厚さ51ミリ、重さ3.2キロ)、OSは、「Windows」らしくなったMicrosoftのOSとして発売当時お祭り騒ぎとなったWindows95でした。

情報処理Iは情報社会、コンピューターの原理、インターネット、情報倫理などの講義、情報処理IIは実際にパソコンを使ったソフトウェアやネットワークの実習です。どちらも高知大学オリジナルの教科書を使っていました。Iの方は情報科学分野の教員の担当でしたが、IIは私たち分野外の教員が担当していました(ちなみに「日本語技法」も同様)。普通の業務で何かとパソコンを使っているとはいえ「大学の授業なのに門外漢が教えて良いのか知らん」という後ろめたさは今でも変わりません。当時は、携帯電話(現ガラケー)の利用が急速に広まっていた頃(インターネット利用は1999年のiモードから)でしたが、学内のネットワークは有線のみで、情報処理IIの教室には全席にLANポートと電源が整備されました。

その後、2003年には高校に教科「情報」が新設され、スマホを持つのが当たり前となり(2007年に初代iPhone発売)、パソコンやインターネットが身近で不可欠な存在になるにつれて、情報処理I・IIも1コマの演習科目に統合(一方で応用的な学部授業が一部で開講)、ネット接続は無線化、新たにデータサイエンスの授業が盛り込まれるなどなど……、「情報処理」の26年を振り返ってみて、今改めて時代の移り変わりを感じているところです。

## 情報を吟味し思考の深淵に投入せよ

医学部

兵頭 勇己

「情報処理の講義を学ぶことで、豊富な知識と技術を習得し、将来のキャリアに活かすことができます。また、現代社会において情報の重要性が高まる中で、情報処理の技術は欠かせないものとなっています。」

……いかがだろうか。上の文章は、対話型AIに「情報処理を学ぶ意義は?」と質問した際の返答を一部抜粋したものである(2023年1月時点)。これを受けて、医学部の情報処理担当教員である私の私見を述べてみる。

将来の医療従事者である医学部生が、情報処理を学ぶ意義はいくつか存在する。例えば、電子カルテなどのPCの扱いに慣れる、データの表現や操作方法を学び、医療データ解析の基盤技術を習得する、などである。ただし、これらは「表層的な」意義に過ぎない。上記の対話型AIでも回答を生成できるような内容である。

私は、真贋を見極めて情報を利用し、新しい価値を創発する術を習得すること、これが情報処理を学ぶ最大の意義と考えている。巷には、誤った情報を掲載しているWebサイトや、根拠のない情報を単純化して尤もらしく回答する対話型AIがあふれている。当然、真贋を見極めるには背景となる専門知識は必要だが、同時に信頼できる情報とはどのようなものか、批判的に吟味して深く思考するための手段など、情報の取り扱い方そのものの技術を高める必要がある。

さらに、既存の枠組みを壊すような新しい価値の創発には、専門分野以外の情報が鍵となることも多い。例えば私の領域で言えば、情報システムの仕組みとの生体の仕組みの相似性などから新たなシステム構成の着想を得るなど、異なる学問領域からヒントを得ることがある。初年次に様々な学問領域に触れて多彩な情報を得ることは、逆説的ではあるが専門家として将来生きていくために重要だろう。

AI共存時代に必要となる情報リテラシーを身につけようではないか。

農林海洋科学部

齋 幸治

## 初年次科目を通じて、“主体性”を高めてほしい

初年次科目は、皆さんもご存じの通り、学部学科に関わらず共通した必修科目群となっています。すなわち、高知大学生として、全員が必ず身につけておくべき知識・意識を養うための科目群と言えます。

高校時代までは、学習指導要領に沿った教育課程の中で皆さんは勉学に励んできました。語弊はありますが、いわば「レールの引かれた道を走る力」を鍛えてきたわけです。ところが、大学での学び、そして研究という場では、これまでのような決められた道はありません。また、成人となり自分がこれから歩いていく道、すなわち進路を考えるにあたって、自らの意思決定が、これまでとは段違いに重要となってきます。大学生となったからには、「自ら道を切り開いていく力」を鍛えていかなければなりません。

私はこれまで、大学基礎論や学問基礎論、情報処理といった初年次科目を担当してきました。もちろん、それぞれの科目に特有の学習目標がありますが、私が初年次科目において共通して受講生に求めてきたことは、“主体性を発揮すること”です。私の担当してきた初年次科目では、グループワークを導入することがままありました。グループワークでは、班内での主体的な発言や、自らの役割を認識し遂行することが求められます。とくに内気な学生さんにとっては、積極的な発言や、皆の前でのプレゼン発表には、大変な労力を要したことと思います。そんな受講生たちに対して、毎回かけている言葉があります。「大学では、自分から動かないと、勉強も、課外活動も、恋愛も、何にも発展しないよ。入学してから今までで、もう気付いてるよね。授業の場と思って、自分から動いていこう」。こう言うと、受講生の多くが頷いてくれます。学生の皆さんも、学生生活を過ごすにあたり、主体性を養うことの重要性を認識しているんだなと感じます。

初年次科目は、受講生の主体性を十分に発揮してもらうために、我々教員も工夫を凝らしてデザインしています。専門課程に入る前に、初年次科目を通じて、“しっかりと自主性を発揮できる自分”を養ってほしいと思います。

## 先輩とのつながりから地域協働の学びを伝える

地域協働学部

今城 逸雄

課題探求実践セミナーと大学基礎論を担当しています。コロナ禍でのロックダウンやオンラインへの対応を担当教員で試行錯誤して取り組んできましたが、1年の第1学期という学生生活の始まりに、地域に出る経験や、仲間と面と向かって意見を交わすことができないことにもどかしい思いでいました。

特に地域協働学部の課題探求実践セミナーは、実習地に足を運んで地域の実情に触れ、先輩学生の活動を見ることで学ぶイメージを作る、大切な第一歩となる授業でした。

そのため今年度は実習地に行けない状況下でも、どうにか地域課題に触れる機会を作りたいと考え、競輪場から紅葉橋までの鏡川の一斉清掃と、大学構内と近隣のスポーツ GOMI 拾いを取り入れました。初夏の日差しの中、密を避けつつもグループでゴミを探しまわる学生たちの顔は、パソコン画面上で見る何倍も生き生きと輝いていました。

実は、この裏には他学部も含めた卒業生や先輩学生のサポートがありました。鏡川清掃では高知市役所で勤務する卒業生による事前授業と清掃道具の貸し出しをしていただき、高知市が環境改善への協力者に発行している地域通貨に学生たちも加わりました。スポ GOMI の学生団体はコロナ対策の活動自粛により消滅しかけていましたが、この授業をきっかけに息を吹き返すことになりました。

大学基礎論でも嬉しいことがありました。本学部の大学基礎論は、大学での学びと卒業後のイメージをテーマとしています。そこで学外講師として卒業後3年程度の元学生に大学で取り組んだことや、社会での活躍ぶりを話してもらいます。歴史が浅い本学部には、まだ該当する卒業生はおらず、これまでは他学部の卒業生に依頼するしかありませんでした。しかし、今年はずいぶん高知県庁と東京の IT 企業で勤める1期生に、地域協働学部での学びを社会で活かしている実体験を語ってもらうことができました。

コロナ禍では授業に対しても多くの制約がかかりましたが、卒業生や先輩学生の協力を得られたことで、地域社会の様々な人々とつながりながら構築する地域協働の学びを、1年生ひとりひとりが体感できたのではないかと考えています。



# シラバスを読んでいますか？

学び創造センター 杉田郁代

(共通教育自己点検・自己評価部会)

共通教育自己点検・自己評価部会は、各分科会と連携・協力して、共通教育の各分科会で実施される自己点検・自己評価活動の統括を行う部会です。本部会では、これまで行ってきた自己点検に加えて、昨年度より、各分科会と連携・協力して、「シラバスの点検体制」の構築を行っています。「シラバスの点検体制」は、学生の皆さんにシラバスを公開するにあたり、授業担当教員だけでなく、複数の教員が関わって、シラバスに記載された内容を点検しています。

シラバスの点検体制を構築する理由は、「シラバスは、個々の授業科目について学生と教職員との共通理解を図る上で極めて重要な存在である」<sup>1)</sup>からです。よって、共通教育では、学生の皆さんへシラバスを公開するにあたり、授業を担当する教員以外の教員による「シラバスの点検体制」を構築しています。

シラバスは、まず授業担当教員が作成します。作成後に、教員自身によって作成したシラバスに対して、セルフチェックを行います。次に、各分科会内の教員によるピアレビューと呼ばれる分科会内の他の教員によるシラバス点検が行われます。この時点では、授業担当者によって作成されたシラバスの記入事項の漏れ、誤字脱字などの点検が行われます。記入事項の漏れ、誤字脱字などがある場合は、授業担当教員に修正を依頼します。その後、授業担当教員による修正が行われ、分科会内で再確認を行ったうえで、シラバスは学生の皆さんへ公開されます。

今回は、シラバスの項目をいくつか紹介してみようと思います。

## 1. 授業科目の到達目標について

授業科目ごとに到達目標が設定されています。到達目標は、「～列挙できる」「～具体的に述べることができる」など、学生を主語にして書かれています。日本の高等教育の指針である『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)』には、「高等教育機関がその多様なミッションに基づき、学修者が「何を学び、身に付けることができるのか」を明確

にし、学修の成果を学修者が実感できる教育を行っていること<sup>2)</sup>が求められています。

ゆえに、授業の到達目標は、学生の皆さんが「何を学び、身に付けることができるのか」を明確にするために、学生を主語にして書かれています。学生の皆さん、授業の到達目標をいま一度、確認してみてください。15回の授業が終了した時に、受講した授業ではどのような学びが身に付いているのでしょうか？

## 2. オフィスアワーについて

オフィスアワーとは、「授業科目等に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯（何曜日の何時から何時まで）のことであり、その時間帯であれば、学生は基本的に予約なしで研究室を訪問することが出来る<sup>3)</sup>とされています。学生の皆さんは、授業内容についてわからないとき、困ったとき、どうしていますか？

そんなときは、ぜひオフィスアワーを活用して授業担当教員に質問・相談してみませんか？シラバスには、オフィスアワーの時間帯、学生相談場所が記載されています。事前にメール等で連絡し予約を取ってから、研究室を訪問してみましょう。オフィスアワーを活用して、授業担当教員に質問・相談することによって、授業理解は深まると思います。

## 3. 授業時間外の学習時間について

学生の皆さんは、どれくらい授業外に学習をしていますか？本学の調査<sup>4)</sup>によると、一日あたりの授業外での学修時間（授業（実験・実習を含む）の調べものや予習・復習、提出課題等の作成、グループでの学修、自主的な勉強等）は、平均3.0時間でした。このことから、高知大学の学生さんは、授業外で3.0時間の学習を行っていることがわかります。シラバスの項目には、授業時間外の学習時間という項目があります。その項目には、具体的に授業時間外の学習時間や分量の目安が記載されています。シラバスを確認する際には、授業時間外の学習時間の項目についても確認しておきましょう。

シラバスは、授業担当教員と学生双方にとって重要な位置づけにあります。履修登録の前だけでなく、初回の授業前にも確認して、授業に臨んでくださいね。

### 引用文献・参考文献

- 1) 中央教育審議会大学分科会『教学マネジメント指針』2020年  
[https://www.mext.go.jp/content/20200206-mxt\\_daigakuc03-000004749\\_002.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200206-mxt_daigakuc03-000004749_002.pdf)  
閲覧日 2023年1月31日
- 2) 中央教育審議会『2024年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）』  
[https://www.mext.go.jp/content/20200312-mxt\\_koutou01-100006282\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200312-mxt_koutou01-100006282_1.pdf)2018年  
閲覧日 2023年1月31日
- 3) 中央教育審議会大学分科会 用語に関する参考資料「資料2 新時代の大学院教育の展開（中間報告）（案）—国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて—」  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/attach/1342526.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/attach/1342526.htm)  
閲覧日 2023年1月31日
- 4) 高知大学「高知大学での学びと学生生活に関するアンケート2021」  
[高知大学まなびのプロフィール2021 \(kochi-u.ac.jp\)](https://www.kochi-u.ac.jp)  
閲覧日 2023年1月31日

高知大学 学び創造センター 教育企画部門 学びの質保証ユニット  
「学びの質向上にむけたシラバスの考え方とチェックポイント」2022年

## 全学・共通教育係からのご挨拶

学務部 学務課 全学・共通教育係 森池 鈴音

はじめまして。令和4年4月に採用され、学務課全学・共通教育係に配属されました、森池鈴音と申します。この挨拶は、令和4年度に高知で2回目に雪が降った日に書いています。まさか南国・高知で2度も頭に雪を積もらせながら帰宅するとは思いませんでした。気象警報発表時や、避難指示等発表時又は発令時には、学生のみなさんの身の安全確保が第一です。教務情報システムKULASより、講義連絡やお知らせ等を確認してください。

前置きが長くなりましたが、私の仕事について紹介します。私は共通教育1号館2階の学務課で仕事をしています。業務内容はKULASのシステム操作、学籍情報の管理などです。また、農林海洋科学部の1年生は朝倉キャンパスで大学生活を送るため、物部キャンパスの学務室学務係との中継役も行っています。配属されて一年、システムから簡単に履修登録ができ、面倒な手続きをせずとも免許等を取得できたのは、事務職員のサポートあってこそだと思います。学生の皆さんが自分らしく満足のゆく大学生活を送れるように、事務職員の立場からみなさんをサポートしていきたいと思っています。特に新入生の皆さんは初めてのことがたくさんあり、悩むことも多いかと思います。私は皆さんと年も近い(はず)ですし、同じ高知大学で過ごした仲間として、悩みを一緒に解決できたらと思っています。困ったときは身近な頼れる方に相談するのもいいですし、相談窓口に来ることも検討してみてください。相談窓口の詳細を記載している高知大学ホームページのURLを以下に記載します。困ったときに適切な相談場所を見つけて行動することも、学生のみなさんにとって必要な能力ではないでしょうか。

HOME > 教育・学生生活 > 学生情報 > 学生生活 > 窓口案内(こんなときはこちらへ)

[http://www.kochi-u.ac.jp/campus/life/gakusei/gakusei\\_madoguti.html](http://www.kochi-u.ac.jp/campus/life/gakusei/gakusei_madoguti.html)

(↑高知大学公式ホームページに飛びます)



### 編集後記

今回の特集は初年次科目でした。今年度たまたま私も学問基礎論に携わりました。学生さんに対して、(やや教科書的ですが)「生徒から学生へとクラスチェンジ」、「教わる立場から主体的に学びとる立場への転換」というメッセージを伝えると、意外(?)にも「そうなのか!」という新鮮な反応が返ってきます。そうしたフレッシュネスとピュアネスに逆にこちらが感動しました。(S)



高知大学共通教育広報誌 [ハイライン] No.61

発行 / 高知大学共通教育実施委員会  
編集 / 共通教育実施委員会広報部  
〒780-8520 高知市曙町2丁目5-1  
☎088-844-8168(学務課全学・共通教育係)

発行日 / 2023年3月  
制作 / (有)西村謄写堂

広報・記事についてのご意見をお待ちしています。  
Mail : [gm06@kochi-u.ac.jp](mailto:gm06@kochi-u.ac.jp)